

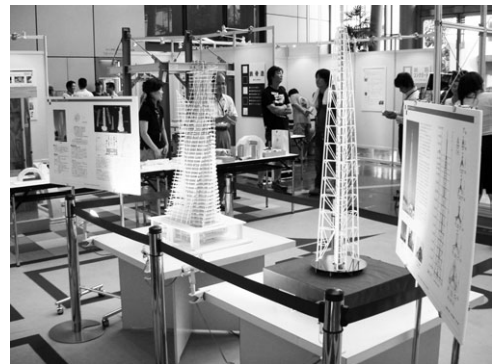
JSCA 中部 『構造展』 開催



会場全景



会場エントランス



展示された構造模型

去る8月18日(金)～20日(日)に、名古屋栄のナディアパーク・2階アトリウムにおいて、JSCA中部支部主催の「JSCA中部構造展」が開催されました。

「つたえる...建築構造技術者のおもいと夢...」をテーマに、宿里構造展企画委員長のもと、技術委員会、事業委員会が中心となり、各種構造技術・構造設計の紹介を通して、構造設計者の思いを伝えました。夏休みの期間中ということもあり、約1,700名の入場者を数えました(関連記事 P4～7)。

構造展を振り返って

技術委員会委員長 高藤 勝己

「構造って何?」

自分の仕事を人に伝えるたびに問いかけるこの質問に対し、多くの構造技術者が答に困った経験を持っているのではないのでしょうか。

5年程前の技術委員会の集まりで、このような状態を打破するべく構造技術者の役割を世間に伝えるための企画「構造展」を開催しようという気運が盛り上がり、技術委員会事務局を中心として開催のための下準備に着手しました。その後、役員会でこの企画の開催を承認していただき、昨年の総会で会員の皆さんに構造展の開催を公表し、続いて技術委員会の各部会を中心とした構造展WGを立ち上げ、具体的な準備にとりかかりました。最初は各人の忙しい業務の合間をぬっての作業であることから、足並みもそろわず、なかなか具体的な案がまとまらず、時間だけが経過し、

開催に向けて不安になる時期もありました。しかし、今年の5月頃からは次から次へと興味のある提案が出され、また提案が遅れている部会に対してはみんなで叱咤激励をし、他の人の提案に対しても前向きに改善案が出されるなど活発に議論され、急ピッチで作業が進む様子を見ながら、構造展の成功を予感しました。

3日間の開催期間中は1,700人を超える来場者を迎え、構造展は予想以上の成功を収めました。特に、キッズコーナーでは多くの子供達が遊び感覚の体験を通し、アーチ構造、トラス構造を学び、構造に興味を持った未来の構造技術者も多くいると思います。最初は僅か数人の愚痴から始まったこの企画も最後は多くのJSCA会員及び関係者の手により創りあげられ、また多くの一般の人たちに構造技術者の存在、役割が認識され、私たちの想いが多くの人に伝わったのではないかと思います。構造展の成功は、この企画に携わった全ての方の熱意によるものだと思います。最後になりましたが、この紙面をお借りして準備に関わった方、構造展を鑑賞していただいた方へ感謝の意を表したいと思います。

(仮称) 株式会社アルペン本社ビル

日本設計 中尾 彰宏
遠藤 和明
相京 正巳

計画概要

計画地は、古くから繊維問屋街を中心に発展してきた業務地域に位置している。計画地周辺では、繊維業界衰退の影響もあり、低未利用街区が散在している。

本計画では、総合設計制度を活用して、土地の高度利用を積極的に行うとともに、緑地や公開空地など良好な都市環境を備えた市街地の形成に寄与する計画としている。

建物概要

建設場所	: 名古屋市中区丸の内2丁目
建築面積	: 1,535.70㎡
延床面積	: 21,702.57㎡
階数	: 地上25階、地下1階、塔屋2階
建物高さ	: GL+115.87m (最高部高さGL+120.196m)
構造種別	: 地上部 S造(柱の一部、CFT造) 地下部 SRC造(外周部、RC造)
構造形式	: 地上部 粘性系ダンパー併用ラーメン構造 地下部 耐震壁付きラーメン構造
制振部材	: 短辺方向 粘性体制振壁(計50基) 長辺方向 オイルダンパー(計88基) 建物頂部 ハイブリッドマスダンパー(2基)
地業	: 場所打ち鋼管コンクリート杭
設計・監理	: (株) 日本設計
施工	: (株) 竹中工務店
工期	: 2005年7月～2007年6月

本計画建物の特徴および構造計画

本計画における主要建物の特徴を下記に示す。

- ①アスペクト比が、約5.5と非常にスレンダーな形状である。
- ②公開空地確保のため、低層部で大きな吹抜け空間を有する。
- ③頂部にヘリポートがあり、トップヘビーな重量配分となる。

これらの特徴に対して、下記の方針で構造計画を行った。

- ①風荷重(特に風直交成分)が大きくなるため、粘性系ダンパーによる制振構造を採用し、建物応答性状を向上させる。
- ②建物の形態上の特長を生かすため、高強度・高靱性な材料を適宜、選択する。
- ③居住性を効果的に向上させるため、アクティブ制御可能なマスダンパーを搭載する。

構造設計方針

構造設計方針としては、下記の3点に留意した。

- ①建物の固有周期付近に計画地の深層地盤の卓越周期があると想定されるため、十分な構造安全性を確保する。



建物パース

- ②風洞実験を実施し、風に対する時刻歴応答解析から粘性系ダンパーの減衰効果を確認し、設計用風荷重を設定する。
- ③振動解析ではSRモデルを用いて、地盤と建物間の相互作用を簡易的に評価する。

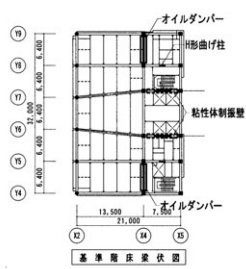
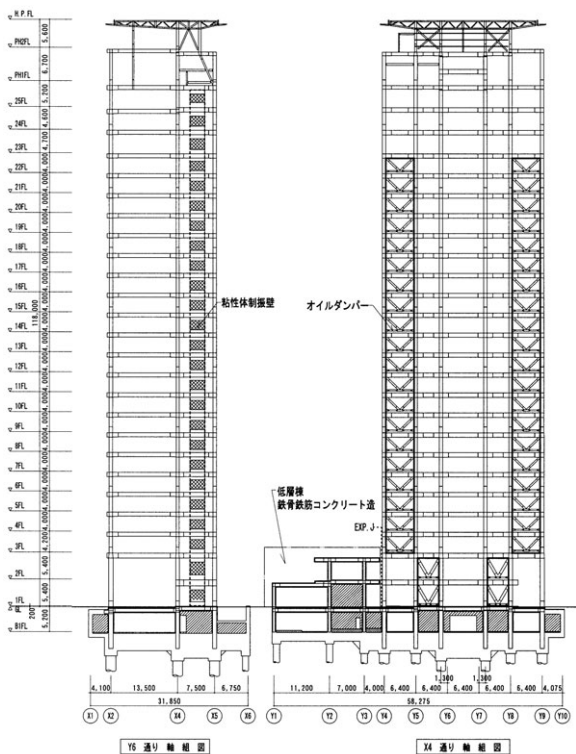
耐震設計概要

設計用入力地震動は、観測3波および告示波とし、十分に余裕度を確保した設計とした。東海・東南海地震などを想定したサイト波の検討、三の丸波による応答解析を実施し、構造安全性および非構造部材の変形追随性を確認している。

粘性系ダンパーの温度依存性や低振幅域での減衰効果の低減を適切に考慮するため、時刻歴応答解析結果を基にダンパーの動的効果を静的な負担せん断力に置換する手法を採用し、ダンパーの効果に幅を持たせた設計とした。

耐風設計概要

設計用風荷重は、風洞実験結果を基にスペクトルモーダル解析による応答計算から算出し、並進2成分と振り成分に対して、応答の相関を考慮した組合せ荷重として算定した。



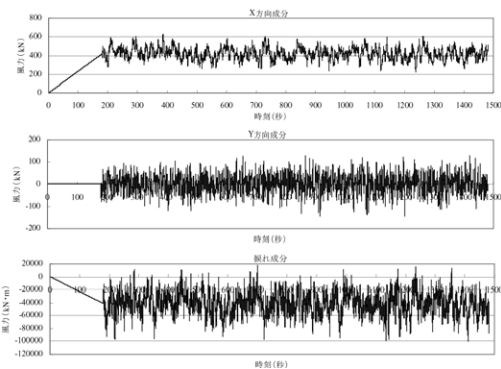
構造概要説明図



粘性体制振壁



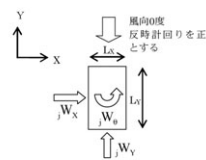
オイルダンパー架構



入力した風力の時刻歴(3成分)の例<風向90°:建物頂部>



風洞実験状況

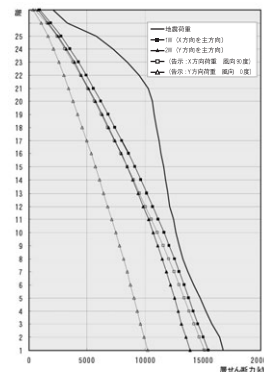


$$W = \sqrt{(W_x + W_y/L_y)^2 + (W_y + W_x/L_x)^2}$$

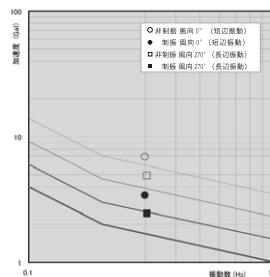
座標系と荷重の定義



マスダンパー



設計用風荷重と地震荷重



風に対する居住性

粘性系ダンパーの付加減衰 Δh は、微小振幅域での減衰効果の低下を考慮したモデルに対し、風洞実験による風力3成分を同時入力した応答解析(減衰エネルギー)から算出した。

再現期間500年とした設計用風荷重は、時刻歴応答解析による応答せん断力との整合性を確認した上で、構造全体の粘性減衰定数を $h=3.5\%$ ($\Delta h=1.5\%$)として設定した。X方向(風向90°)を主方向とした組合せ荷重(上記W)が最大となる。

建物頂部には、振れを含めた風揺れによる居住性能改善の目的でマスダンパー(質量25ton×2基、最大ストローク±40cm)を設置し、建物の応答を低減させる計画とした。

一年再現期待値風速に対して、建物頂部の応答加速度が約50%に低減可能となる(付加減衰定数 約7%)。また制振装置作動の限界風速は、再現期間約12年に相当することを確認した。

Digital Filing

書類が活きるデータベースへ

デジタルファイリング

CAD出力・変換サービス

電子納品・ドキュメントスキャン

マイコウシャ

有限会社 名工社

☐高岳店 ☎052-931-7066 ☐伏見店 ☎052-211-5287

☐丸の内店 ☎052-221-6691 ☐名東店 ☎052-704-3210

コピーサービス、製本、デジタルプリント、デザイン……etc

HOME PAGE <http://www.meikousha.co.jp/>

構造設計者の思いをつたえるコト

技術委員会計画部会 鈴木 尚之

構造計画は、建物の設計プロセスにおいて最も重要な設計行為の一つです。したがって、「構造設計とは何か」ということを一般の方々にも広く知っていただきたいという思いは、構造設計に携わるもの皆が抱いている思いではないかと考えます。

構造展出品にあたり、当初、「わかりやすい構造力学の説明」や「代表的建物の外力抵抗機構の図解説」といった案が挙げられました。しかしながら、構造設計を生業にする我々としては、やはりその仕事の内容を積極的にアピールすべきと考え、「構造設計者」をテーマとして取り組みました。

展示パネルの作成に際し、

- ① 構造設計とは機械的な作業ではなく、設計行為＝「デザイン」である。
- ② 構造設計者の立場にも、設計事務所や建設会社といったいろいろな形態があり、それぞれの役割も異なる。
- ③ 個々の構造設計者の得意分野や技術力、建築に対する美的センスもさまざまである。

ことを理解した上で、建築設計者や施主との十分なコラボレーションを図ることに構造設計の意味や面白さがある。ということ伝えて、絵や模式図で紹介しました。



キッズコーナーで楽しむ子供達

テーマがやや重い内容で、説明の内容がどうしても固くなってしまいうことから、興味を示される方は少なかつたように見受けられ、少々残念な結果となり、改めて構造設計を説明することの難しさを感じました。しかし、中には熱心にパネルを読んでいただいた学生さんなどもおられ、その点は救いとなりました。

キッズコーナーでは、積み木や紙といった身近な素材を利用して、「アーチ」「トラス」「折板構造」などの構造の基本的な原理を、遊びながら学ぶというテーマで準備を進めました。夢中になってトラス模型を組み立てる子供達の姿が印象的でした。また、図らずも、子供達のみではなく学生さんや大人の方も夢中になる様子を見ると、実際に自分の手で触って遊びながら力学の仕組みや空間認識を感覚的に理解することが、人間の興味や好奇心に刺激を与える初歩的な手法であることを改めて認識しました。

鉄筋コンクリート構造のしくみを模型で体験

技術委員会コンクリート系部会 牧野 章文

コンクリート系部会では、鉄筋コンクリート構造の歴史や鉄筋コンクリート造の有名な建築物をパネルで紹介するとともに、小中学生にも鉄筋コンクリート構造の原理やしぐみを体験的に理解してもらえるように、模型展示と体験コーナーを実施しました。

(1) 名商大万博記念ゲートの模型

名商大万博記念ゲートは、プレキャストコンクリートのピースを積み上げたピラミッド形状のゲートです。このゲートの1/50の模型を展示し、構造のしくみを理解してもらいました。

(2) コンクリートの比重体験模型

普通コンクリート、軽量コンクリート、重量コンクリート、ALCの10cm角のブロックを展示し、重さ(比重)の違いを体験してもらいました。

(3) 鉄筋コンクリート柱の模型

実際の柱の配筋の様子がわかるようにした30cm角の鉄筋コンクリート柱の模型を展示して、鉄筋コンクリート構造の原理を理解してもらいました。

(4) 砂、砂利、セメントの展示

コンクリートの材料となる砂、砂利、セメントを展示し、ビジュアルに体験してもらいました。



電磁波レーダーによる鉄筋探査

(5) 電磁波レーダーによる鉄筋探査

コンクリートスラブの構造模型を設置し、電磁波レーダーを使って鉄筋探査を実際に体験できるコーナーを設置しました。電磁波レーダーによる探査の結果は、すぐにその場でモニターに表示され、自分で行った鉄筋探査結果と実物との比較を体験してもらいました。

以上のような模型展示と体験コーナーにより、幅広く一般の方々にも、鉄筋コンクリート構造を体験的に理解してもらうことができ、有意義な構造展になりました。

市民の思いは？

技術委員会鉄鋼系部会 山崎 暢

鉄鋼系部会は一般市民の皆さんが建築鉄骨に少しでも慣れ親しんでいただくことを大きな目的としました。

1) パネル展示:内容は、

- ①一目でわかる世界の有名な鉄骨建物の歴史
- ②鉄という材料の特徴
- ③鉄骨素材の形の理由 ～実例を示して～
- ④鉄骨造ができあがるまで ～製作の現場から～
- ⑤鉄はリサイクル材料 ～環境から見た鉄～

などでしたが、来場者アンケートによると、まあまあ理解していただけたようでした。

2) 展示物

実際の鉄骨造のミニチュアモデルを製作しました。街中にあるビルや鉄塔・住宅などの一般的な鉄骨造の納まりをモデルに組み込み、各所に説明書きを添えました。

さらに、子供さんが親しみを持てるように遊具っぽく見えるような明るい色で



第2の人生は名大で

骨組みを着色し、実際の電車のつり革を盛り込み、ぶら下がるような工夫を加えました。これも実際に思惑通りになったかと思います。

なお、この展示物は構造展終了後、名古屋大学の建築教育用模型として第2の人生を歩むことになりました。

3) 最後に

今回の構造展の催しにあたっては、鉄鋼系部会のコアメンバーおよび技術交流会の有志の方々に多大なる協力をしていただき、どうもありがとうございました。また、実際に展示物を作成していただいた縣鉄工・のより溶工さん、および学習絵本『夢みる街の新・モノ語り』を提供していただいた新日鐵さんに対しましても、この場をお借りしてお礼申し上げます。



鉄鋼系部会のメンバー

生活者自らが行う簡易耐震補強

技術委員会木質系部会 池崎 松蔵

われわれ木質系部会では、新築住宅の構造性能が向上されて行く中で、大量にとり残され、なかなか進まない木造住宅の耐震改修のあり方について話し合いを進めていました。従来、「木造住宅で高額な金額を支払ってまで耐震改修を行うのか?」「居住したままで耐震改修は行えるのか?」という点が最大の問題との認識のうえで、それならば、「完璧には改修できなくても、現状より少しでも安全に、少しでも強度の向上を目指す」という考えはどうかと思うに至りました。

一方で、この考え方は、改修に対する方向性の根幹部分ではあるものの、われわれだけの特有の考えに陥っていないかとの不安も常に感じておりました。なかなか居住者や所有者と直接意見交換をする場所や機会はありませんし、完璧ではない以上公的機関での支持も難しいとの思いから、方向性の結論には至りませんでした。そんな中、今回名古屋で初めて行われた構造展では、フレームの構造模型の展示と地震被害や耐震改修の考え方をまとめたパネルの展示を行うことで、来場者の耐震改修に対する興味を引き付けると共に、多くの意見を得る機会として、また、少しでも改修してみようと言う気運を作る場所として捉えてきました。結果、「わしゃ耐震改修したけどほんとに

大丈夫きゃ?」「こんな事で丈夫なるんきゃ?」「一人じゃできんて。」「これならとうちゃんできそう。」などの声も聞かれ、われわれにとっては有意義な機会だったと思っています。

今後は可能な限りこの構造展を続けていただき、「今回はここに来て我が家にこんな金物取り付けてみた。」「今度は板を打ちつけてみたいんだが。」「木造って簡単。」「木造で良かった。」と身近に耐震改修を進めて行く事が出来れば、他の部会、他の構造と違い多くの住宅を抱える木質系部会は、生活に密着した部会として一つの方向性を持つ事ができると考えています。



木造フレーム模型

建物を足下から支える

技術委員会地盤系部会 高木 晃二

いつも足下にありながら、その中が見えないため、あまり不思議とも思わず、普通は興味の少ない地盤。構造展にあたりパネルで何を紹介したらいいのか。今回の構造展はまずそこから始まりました。

最初に思いついたのは、地震。でも、地震で一般の方に興味を持ってもらえる地盤そのものの話は液状化ぐらい。液状化の話に繋げるのに何から話したらいいのか。皆さんが地盤の何に興味を持ってくださるのか。いろいろな意見を伺いながら、今回の6枚のパネルになりました。

まず土の分類とできた時代。粘土、シルト、砂、礫、岩。そのサンプルを触れれば、もっとおもしろくなりそう。展示した粘土のサンプルに残っていた、いくつもの指の痕。霧吹きでサンプルが乾かないよう水をかけていた甲斐がありました。

次に断層と地盤の沈下、液状化。印刷がいまひとつ不鮮明で細かい断層アトラスと地域地盤図の中から自分の住んでいる場所を一所懸命に探していただいた皆さん、ありがとうございました。

その次は基礎と杭のいろいろ。こちらは展示物がパネルだけでいまひとつだったようです。



家庭でもできる液状化実験セット (右)

会場と名古屋市の西・中央・東のボーリング柱状図と土質サンプル。見たことのない足下の深いところが少し見えたような気になっていただけでしょうか。

地盤系コーナーでの一番人気は液状化の実験コーナー。あの液状化がこんなに簡単に再現できるとは!担当者もビックリの出来でした。実験コーナーの前で、再度準備をする苦労も顧みず、何回も一生懸命に液状化を起こしてくれたボク、ありがとうございました。

次の機会には、もっと興味を持っていただける展示品が企画できればと思います。

耐震・制震・免震…地震からくらしを守る…

技術委員会免制震系部会 小阪 淳也

今回の構造展に際して、臨時WGとして「免震・制震構造部会」を立ち上げました。

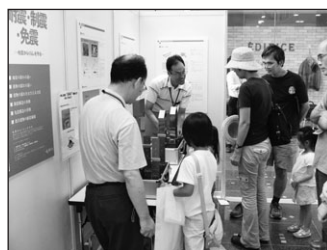
当WGでは、

- ① 地震には断層のずれ、震源からの距離、地盤構造などにより揺れ方に違いがある。
- ② 建物にはそれぞれ固有の周期があり、一般に建物の高さが高いほど長い。
- ③ 建物の固有周期と地震の揺れが共振する場合に、建物の揺れが大きくなる。
- ④ 建物の揺れを小さくするための新しい技術として、「制震構造」や「免震構造」が実用されてきている。

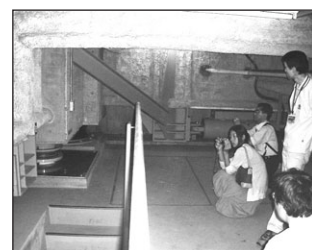
ことを一般の方々に理解していただくために、数枚のパネルを使用して説明を行いました。パネルはできるだけ平易な言葉で表現することに心掛けました。

また、

- 1) 名古屋大学福和研究室にて開発・製作された手回し振動台“ぶるる”をお借りし、実際に手で回すことにより、揺れの違いを体感していただく。



手回し振動台を使つての説明



免震建物の見学ツアーの様子

- 2) 建物に使用される「免震装置」や「制振装置」の小型模型を並べ、自由に触れられるようにする。
 - 3) 免震建物の見学ツアーの開催
- といった、来場者自身が参加できる内容も企画しました。

展示会当日の来場者の反応は、振動台の揺れを変えると大きく揺れるおもしろいことや、免震構造のモデルでは揺れが抑えられるなどの現象を不思議そうにご覧になられたり、免震構造・制震構造の原理を楽しみながら聞いていただくなど、こちらの思惑通り体感していただけたのではないかと思います。

このような一般の方々への構造についての説明は、これまで私たち構造技術者にとってはどちらかというと苦手な分野ではなかったかと思いますが、特に昨今は一般の方々も耐震性についての関心が高く、非常に重要で必要なテーマとなってきていると感じました。

構造展を振り返って

事業委員会委員長 末吉 直樹

・構造設計者の思いを伝えた空間

10m×16mの展示スペースは半年に渡る全体打合せ、展示資料の企画・製作及び広報活動の華だったと思います。

テーマに沿った展示パネル・建物や部材の模型、キッズコーナーでの体験を通した子供さん達に楽しんで貰える説明や、一般市民との分かり易い用語での対話は、十分な準備の成果であり、“伝える”という構造設計者の思いが来場者へ伝わった事と見受けられます。

最後まで…。

特別参加 竹中工務店名古屋支店 海谷 博

企画委員の方から「はじめの少しだけ、手伝ってくれないか」と声を掛けられたのは、昨年の12月末のことでした。このお誘いに快諾してしまった私は、結局、開催期間の最終日まで、この構造展に浸り、染まった8ヶ月間でした。

この構造展では、会場レイアウトから始まり、看板類のデザインや展示パネルのフォーマットなど、会場全体のイメージ作りを担当させていただきました。

会場が決まってくると、今度は主役の展示物(パネル・模型・体験コーナー・ビデオ)の出番となる訳ですが、限られたスペースの中で、つた

・信頼関係を育む

各委員会が今回の様に一つのテーマ実現に向けて時間を掛けて協力し合った事は、これまで以上の信頼関係を各委員会間に生み、今後の支部活動の大きな原動力が蓄えられたと思います。

・市民とともに自分も楽しむ

構造展開催期間中、各担当者は市民との対話も含めいろいろと自分自身もこのイベントを楽しまれたことと思います。こういう楽しみが次々と同様な企画に繋がっていく気がします。

構造展を振り返って思いつくままに綴ってみました。

えたい“おもいと夢”を、どのように表現するか葛藤が始まりました。一枚のパネルのために、深夜まで皆で議論を重ねたことも…。

しかし、そのような努力の成果が、今回の構造展の大成功に結びついたことは言うまでもありません。来場者の子供たちが、積み木や紙工作でイキイキと目を輝かせていました。学生が展示パネルを真剣な眼差しで読んでいました。一般の方も模型を見て“なるほど”とうなずいていました。私は、あの多くの人たちが、今回の構造展テーマの“おもいと夢”を受け止めてくれたことと確信しています。

最後に、この構造展を通じてたくさんの方との交流が深まり、たくさんのおもい出ができました。最近、味わっていなかった充実感を本当に感じました。本当に有難うございました。また次の企画があるときも、ぜひ声を掛けてください。その時は、こんな感じでお願ひします。「最後までよろしく!」と…。



ビデオコーナーにて



設計事例のパネル展示の様子



受付に御協力いただいた学生さん

構造3D
提案資料
Web3D

技術提案で他社と差別化したい
遠隔の技術者と構造共有
付加価値を施主に視覚的に提案

詳しい情報はこちらをクリック!

<http://www.pyxis.ne.jp/JSCA>

インターネットで
してご覧ください。ぐりぐり



新次元からものづくりを提案する
有限会社ピクシース

名古屋市中区錦1-13-33福昌名古屋ビル6F
TEL052-218-6622 FAX052-218-6644

北陸部会平成18年度前半の活動報告

北陸部会福井会 藤田 哲朗

- 北陸部会では4月の総会から以下のような活動を重ねてきました。
- 4月例会:講演会『橋梁設計について』(金沢工大 環境土木工学科 西田進教授)と年度総会
- 5月例会:講演会『地盤と地震の話』(福井工大 安井讓教授)
- 6月例会:オープン講習会『限界耐力計算による木造住宅の耐震設計と耐震改修』(JSCA関西支部 榎原健一氏・榊田洋子氏)とゴルフ大会
- 7月例会:講演会『災害と一戸建て住宅』(岡部 榊 河崎四郎氏)
- 8月特別例会:講演会『建築構造設計の今後の法整備について』(JSCA 副会長 木原碩美氏)
- 8月移動例会:中部国際空港見学とJSCA中部支部『構造展』の見学と懇親会

毎月、福井、石川、富山の3県で担当や会場を持ち回りにして講習会を中心に、構造系の工法説明会、交流活動などに励んでいます。今期前半で印象に残ったメニューは6月のオープン例会と8月の二度の例会です。6月は関西支部で開発された限界耐力計算による

静岡部会の最近1年間の活動報告

静岡部会長 澤木 俊治

静岡部会の活動において、勉強会の面では昨年度は、最近の設計法ということで、限界耐力セミナーを6回、エネルギー法の考え方の講習会を1回行いました。そして、その延長になりますが大阪に静岡部会の希望者4人と4月から6月までの土日の8日間「新しい設計法」の講習会に行ってきました。

その後、姉齒偽装事件から発した「マンションのサンプル調査」に対する対応に振り回されており、今年は、8月に日置弁護士にお願いしまして「耐震偽装の教訓と建築士の責任」の講演会を行なっただけです。やっと、10月に「コンクリートの基礎(ひび割れ防止と混和材について)」の講習会および毎年の恒例になりつつある「鉄構組合青年部との交流会」を行なうことになっています。

また、対外的には今年になり、新聞社・テレビ局の主催する「住まい博」の講演会の講師、および相談員の要請があり、その開催地区(浜松、静岡)の会員に協力を戴き、お手伝いをすることができました。

そして、昨年度末から静岡県建築営繕企画室からの依頼があり、検討を行ってきました営繕関係の職員に対する「発注者側として必

木造の設計、補強方法を学習しようと一般の建築関係者にも呼びかけたところ100人を超す参加があり、今時の住宅の耐震性への関心の高さに驚きました。

8月は木原副会長をお招きして、偽装事件の詳細、資格制度、確認審査制度の方向性などをお話していただきました。構造技術者がまた埋没してしまうのか、社会にその存在意義を確かなものとして認められるのか、明治維新的な瀬戸際であることを実感しました。その一週間後には、名古屋へ構造展を見学にいきましたが、若者の集まる街中施設に違和感なく展示されていることに新しい構造技術のメッセージを感じました。懇親会で聞けば、かなりの時間をかけて準備されてきたとのこと。昨年以来の耐震偽装事件による構造関係者のイメージを払拭するヒットだと思いました。

北陸部会では今後も、PML(建築物の地震による予想最大損失率)やプレハブ免震住宅の体験など色々なテーマで研修例会を企画していきます。北陸路はこれからは秋の収穫の季節です。他部会からの参加もいつでもウエルカムですので是非お気軽にご参加ください。お待ちしております。

要な構造の基礎(構造計画、構造計算、監理等)の講習会を10月にJSCA静岡部会の会員が講師となって行うことになりました。少しでもJSCAの認知に繋がればと思い、外部への協力を実施しているところです。

一方、昨年末の姉齒事件によって、建築における構造設計者の存在も知られるようになり、JSCAには絶好のチャンスだと思います。現在、準備を進めている指定構造計算適合性判定機関の「適合性判定員」の構造実務家の内訳をみると、JSCAおよび建築構造士は小間使いでしかなく、判定機関の実行は事務所協会が行なうのではと思われると思います。

他の地方と同様に、静岡県におけるJSCAの存在はまだ不十分です。静岡県では耐震診断だけでなく、構造関係は構造設計指針をはじめ、全てが事務所協会の扱いで、耐震評定委員会が事務所協会の中にあり、耐震診断業務の受託もしています。

レビューを含めたマンションサンプル調査の情報不足も加わり、「中部支部の部会でしかない静岡部会ではなあ?、関東のようにサテライトにできないかな」との会員の声が聞かれるようになっていきます。しかし、上記「構造計算適合性判定制度」におけるJSCA会員の構成等によるむずかしさを考えると、JSCAの存在さえ危惧されるのではないかと思うのは静岡だけでしょうか?

JSCAの社会的存在意義等を考えるべき時ではないかと思っています。